

# 2014年度自己点検・評価報告書(シート)

## 【目標の進捗状況(達成度)評価・報告】(最終年度)

### 《大学》

担当(記述)部局は、 ☆印の箇所を記入してください。

### I. 評価項目・要素と担当部局

本報告書(シート)の自己点検・評価項目・要素と担当部局は次のとおりである。

対象部局	総合政策研究科
大項目	6 教育内容・方法・成果 (研究科)
中項目	6.1 教育目標、学位授与方針、教育課程の編成・実施方針
小項目	6.1.1 教育目標に基づき学位授与方針を明示しているか。
要素	学士課程・修士課程・博士課程・専門職学位課程の教育目標の明示 教育目標と学位授与方針との整合性 修得すべき学習成果の明示
小項目	6.1.2 教育目標に基づき教育課程の編成・実施方針を明示しているか。
要素	教育目標・学位授与方針と整合性のある教育課程の編成・実施方針の明示 科目区分、必修・選択の別、単位数等の明示
小項目	6.1.3 教育目標、学位授与方針および教育課程の編成・実施方針が、大学構成員(教職員および学生等)に周知され、社会に公表されているか。
要素	周知方法と有効性 社会への公表方法
小項目	6.1.4 教育目標、学位授与方針および教育課程の編成・実施方針の適切性について定期的に検証を行っているか。
要素	

### II. 目標の進捗状況(達成度)評価と報告【2014.4.30現在】

#### 《進捗状況(達成度)評価》

本項目において、2009年度～2013年度の中期的な「目標」と「指標」を次のとおり設定し、毎年度進捗状況(達成度)の自己評価を行っている。進捗状況(達成度)評価は、目標の2014年4月30日現在における進捗状況(達成度)の評価(2013年度1年間の活動評価ではなく、2014年4月30日現在で目標がどこまで進んだかの評価)であり、A、B、C、Dの4段階で行ったものである。A、B、C、D評価の基準は目安として次のようなものである。

- A : 目標実現のための計画や方策などを適切に実行し、目標を達成している。もしくはほぼ達成している。
- B : 目標実現のための計画や方策などを概ね適切に実行しているが、まだ目標は達成していない。
- C : 目標実現のための計画や方策などを実行しているが十分ではなく、目標は達成していない。達成にはまだしばらく時間がかかる。
- D : 目標実現のための計画や方策などを実行していない。当然目標は達成していない。

2009年度に設定した「目標」	左記目標の「指標」	進捗状況(達成度)評価				
		2009	2010	2011	2012	2013
1. 本研究科が目指す教育目標、求める院生像を2010年度中に検討し、明確にする。	→大学院の教育目標(ミッション)の具体的な明示の有無。	B	B	A	A	A
2. 現在の「アカデミック・コース」と「プロフェッショナル・コース」の2コース制のあり方を2010年度中に見直す。	→2コース制の見直しの有無。	A	A	A	A	B
3. 本研究科の中での英語履修コース(国際開発戦略コース)の位置づけと教育目標を2010年度中に検討し、明確にする。	→英語履修コースの教育目標の明示化とカリキュラムの見直しの有無。	A	A	A	A	B
4. 博士前期課程と博士後期課程がそれぞれ目指す教育目標を2010年度中に検討し、明確にする。	→前期課程と後期課程それぞれの教育目標の明示化と、教育内容への反映の有無。	C	C	A	A	A
5. 文科系・理科系という学際的な本研究科の特徴、総合政策的な教育・研究方法の意味を2010年度中に検討し、次項(6.2)で述べる2011年度からの教育・カリキュラム体系の再編成に反映させる。	→学際性を活かした教育スタイルの、カリキュラムや教育内容への反映の有無。	A	A	A	A	A

☆

2010年度以降に設定した「目標」	左記目標の「指標」	2009	2010	2011	2012	2013
	→					
	→					

《進捗状況(達成度)報告》 担当(記述)部局は「指標」に基づいた報告をしてください。

上記で自己評価した目標の進捗状況(達成度)について、次のとおり説明・報告する。

目標1	A	<p>Do: 目標を達成するために、目標を設定した年度以降、どのようなことを、誰が、どのようにして、どれだけ取り組んできたか 2011年度秋に策定・公表したディプロマ・ポリシーおよびカリキュラム・ポリシーを具体的な研究科の教育目標として実施している。大学院履修要項であるStudy Informationにも明記している。教育目標の妥当性は大学院FD・カリキュラム検討委員会においてつねに検証している。</p> <p>Check: 結果はどうであったか。良かった点・効果が上がった点は何か。課題・改善点は何か ディプロマ・ポリシー、カリキュラム・ポリシーを含め教育目標を明示化したことにより、修士論文、博士論文に向けた研究目標がより明確になった。</p> <p>Action: 今後どうするのか。伸長策、改善策は何か 今後も検証を続けていく。</p> <p>その他</p>	☆
目標2	B	<p>Do: 目標を達成するために、目標を設定した年度以降、どのようなことを、誰が、どのようにして、どれだけ取り組んできたか 2011年度、2コース制を廃止し修士論文を必修とする課程に1本化したが、マスターセミナーの充実とともにリサーチ・フェアおよびリサーチ・コンソーシアムにおける研究発表の義務化など、修士論文作成に向けたきめ細かなプロセスを実施している。</p> <p>Check: 結果はどうであったか。良かった点・効果が上がった点は何か。課題・改善点は何か 2013年度はすべての大学院生が発表をおこなった。発表により自らの研究に対してのフィードバックがえられ、修士論文の質的向上にも寄与している。一方、毎月一度実施しているドーナツアワーでの大学院生(特に博士前期課程の学生)の発表が活性化していない。</p> <p>Action: 今後どうするのか。伸長策、改善策は何か 大学院生にオリエンテーションを始めさまざまな機会に研究発表の重要性をアピールしてゆく。</p> <p>その他</p>	☆
目標3	B	<p>Do: 目標を達成するために、目標を設定した年度以降、どのようなことを、誰が、どのようにして、どれだけ取り組んできたか すでに英語コースを開設済みである。履修者は2013年度1名である。</p> <p>Check: 結果はどうであったか。良かった点・効果が上がった点は何か。課題・改善点は何か 英語で開講される科目で修了単位数を満たすことができるが、対外的にあまり知られていない。今後広報で周知することが課題である。</p> <p>Action: 今後どうするのか。伸長策、改善策は何か 2016年度からのカリキュラム改革では、英語コースそのものの存続も含めて検討中である。</p> <p>その他</p>	☆
目標4	A	<p>Do: 目標を達成するために、目標を設定した年度以降、どのようなことを、誰が、どのようにして、どれだけ取り組んできたか 2011年度秋に博士前期課程、博士後期課程それぞれについてディプロマ・ポリシーおよびカリキュラム・ポリシーを策定・公表した。</p> <p>Check: 結果はどうであったか。良かった点・効果が上がった点は何か。課題・改善点は何か 博士前期課程および後期課程の修了目標が明確になった。</p> <p>Action: 今後どうするのか。伸長策、改善策は何か 今後もStudy Informationに明記するとともに、オリエンテーションなどを通して周知徹底することが必要であろう。</p> <p>その他</p>	☆

目標5	A	Do: 目標を達成するために、目標を設定した年度以降、どのようなことを、誰が、どのようにして、どれだけ取り組んできたか 2010年度に新カリキュラムを策定し、2011年度から新カリキュラムによる教育が始まった。2012年度は新カリキュラムによる最初の博士前期課程修了者を輩出した。現在、領域ごとの科目数や開講形態などについて検討を開始している。	☆
		Check: 結果はどうであったか。良かった点・効果が上がった点は何か。課題・改善点は何か 2013年度を通して、大学院FD・カリキュラム検討委員会で検証と検討を続けた。全体に科目数が多く、領域が細分化されすぎている点が問題点として指摘されている。	☆
		Action: 今後どうするのか。伸長策、改善策は何か 2016年度をめざして、カリキュラムの整理と改革を大学院FD・カリキュラム検討委員会で検討を始めている。	☆
		その他	☆
			☆
備考			☆